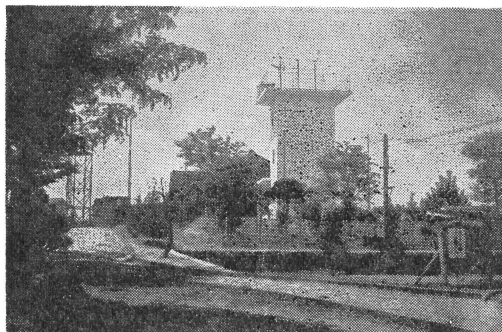


地方だより



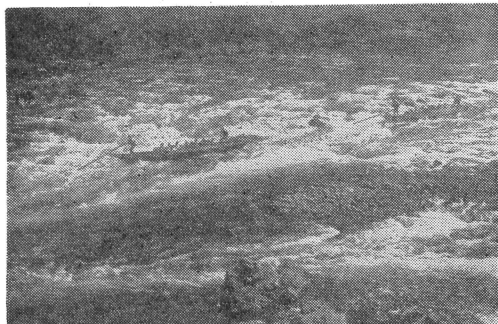
正門前からみた人吉測候所

人吉市は熊本県南部、球磨盆地の中心をなし、人口4万6千。昭和17年県下3番目の市として誕生した。古くから熊襲親征や平家の落人等で知られているが、建久4年(1193年)相良公が遠州相良の荘から西下して築城したのが始まりで、以来城下町として発展して来た。

盆地は四方高い山々に囲まれ、海拔100~200mのやや起伏のある平坦地で、ここからとれる米はすし米や名酒球磨焼酎の原料として品質の良さを誇り、山岳地帯の林業とともに主産業をなしている。この他産物として椎茸、茶、鮎等があり、土産品としてはきじ鳥や香箱等格調の高い民芸品がある。又近年の釣ブームに乗って釣竿も多く産し、海外にも出荷して外貨獲得の一役をも荷っている。

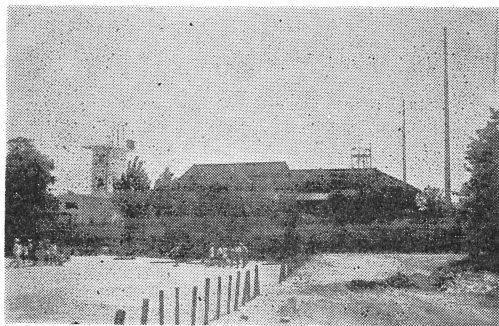
当市は一口に言って自然美に恵まれた憩いの温泉郷であり、地理的にみて近代都市との交流が薄く、現在なお山紫水明そのままの姿を保っている。又城主の国替えのなかった事や諸戦災の痛手をほとんど受けなかった事等、県下の文化財の三分之二を現存している文化性の高さ、優雅な美人系の多いのも、地理的、歴史的から見てうなずける。

盆地特有の朝霧も有名であり、又夜間の冷込みもひどく、夏涼しいかわりに冬は毎朝のように霜、霜柱、樹霜をみ、南国九州を頭に描いて来る人々には驚きである。



球磨川下り

人吉測候所



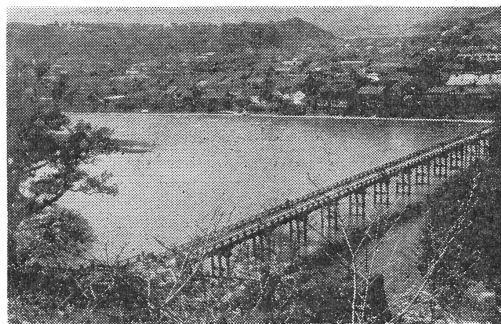
人吉測候所全景(隣接小学校々庭からみる)

こうした地理的、気候の悪条件下では主産業は伸び悩み、木材は工業都市八代へ素通りするなどの悪条件も重って、市の発展性は薄れ、人口もここ数十年は横ばいを続けると言った状態。近年九州縦貫高速道路の建設が具体化して、市発展にもわかに脚光を浴びて来たが、反面この自然美を壊されると憂える人々の声も聞かれ、観光立市を叫ぶ市当局も、自然の保存は頭痛の種らしい。

市街中央を貫流する球磨川は日本3大急流の一つに数えられ、激流や奇岩をぬって下る「球磨川下り」は有名である。又子守歌で知られる五木村は、支流川辺川の上流にあり、昨年夏手痛い大水害に見舞われ、その余波は当市内にも及んだ。

肥薩線人吉駅から徒歩15分、駅裏手の村山台地の一角に建つ人吉測候所は、つい先頃3階建、しょうしゃな白亜の測風塔が出来たばかりで、市街地を一望のもとに見下す絶好唯一の場所といえる。戦時中、軍の飛行場関係で昭和17年に創設されたが、戦後は球磨川水系の水理水害面で重要さを増しており、ロボット雨量計2カ所(市房山1722m、白髪岳1417m)を管理し、特区測候所として定員7名手一杯の業務を遂行している。

測風塔の新営とともに予備電源室やFAXも設けられ、近い将来VHF通信網の整備とあいまって、業務面で多大の発展が期待されよう。(1964.5 石川記)



球磨川と、人吉市街(城跡からの展望)